

庭のお手入れガイド

緑は生き物です。春には芽が吹き、夏には葉が生い茂り、秋には紅葉し、冬は落葉します。季節によって様々な美しい姿を見せてくれます。しかし、生き物であるからこそ、水不足や病気、害虫などにより枯れたりすることもあります。そうはならないようお庭の緑を美しく維持するための効果的なお手入れ方法をお教えます！

目次

- 水やり . . . 植物にとって大切な水分をあげましょう。 P2
- 施肥 . . . 栄養をあげて植物を元気に！ P3
- 剪定 . . . 樹形を整え、お庭にあった大きさにしよう。 P4
- 消毒 . . . 定期的な消毒で害虫防除を。 P5
- 芝生 . . . 適切な管理で、芝を常に美しく保とう。 P7

庭のお手入れ 年間スケジュール

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
10～15日に1度		灌水：5～7日に1度			灌水：毎日たっぷり			灌水：5～7日に1度			灌水：
寒肥			お礼肥				夏肥				寒肥
冬期剪定					夏期剪定・刈込					冬期剪定	
				消毒				消毒			
		目土		芝刈り							

※年間スケジュールは基本的な管理の目安となります。お庭の状況によって管理方法が変わることもあります。

庭木の水やり

植物は水をやらなければ生きてゆけません。植物は水を吸収し、葉や幹から水分を蒸散させます。植物が正常な生育をしていくためには、乾燥しないように水やりのバランスに注意していかなければなりません。ポイントは鉢に水がいきわたるように回数を少なくして一度にたっぷりとやること。しっかりと地面が湿っているか、水やりをしたあとに少し掘ってみるとよくわかります。

樹木の種類別の水やり

- 常緑樹（椿、シマトネリコなど）、針葉樹（マキ、レイランドヒノキなど）・・・常緑樹も針葉樹も葉がいくぶん厚いため、比較的乾燥に強いといえますが、植えられたばかりの場合は根が少なくなっていますので2～3年は十分注意して水をやらなければなりません。
- 落葉樹（ケヤキ、コブシ、ハナミズキなど）・・・常緑樹に比べ、感想に弱く、夏の日差しが強く風のある日は葉がしおれてしまうこともあります。夏場は特に気をつけて水をあげてください。
- 灌木・低木（サツキ、ツツジなど）・・・灌木類は、比較的乾燥に強いのですが、花壇の中や日差しのあたらない軒下に植えられることが多いので注意しましょう。

季節別の水やり

- 春、秋・・・なるべく朝に、5～7日に1度、晴天が続くようなら3日に一度は水をやるようにしましょう。
- 夏・・・毎日たっぷりと水をやりましょう。日照りが続いたら1日に2回やると安心です。また夏場の日中は日差しが強いため、葉に水をかけてしまうと焼けてしまうので注意しましょう。
- 冬・・・10日～15日に一度午前中に水をやります。暗くなってからやると水が凍ってしまうので樹木に悪影響です。また、植え付け直後の場合は多めに水をやりましょう。

地植えの場合で、植え付けから2、3年たつと樹木が根付いてくるので、夏場の晴天が続くような場合のとき以外、水やりの必要はありません。

庭木の施肥

肥料は、与えなければ木が枯れるというものでもありませんが、樹木を丈夫にし、花芽を増やしたり、冬の寒さに耐えるように木に力をつけさせたりするのに必要です。

- 寒肥・・・主に肥料を与える時期になります。樹木が活動をはじめる前の冬の間（12月～2月）に施肥します。春の芽だしを助け、成長を盛んにさせます。
- お礼肥・・・花の終わったあとや、実を採ってしまったあとに与えます。花や実をつけるために使ってしまった養分を回復させ、翌年も元気に花実をつけてもらいましょう。
- 夏肥・・・8月下旬から9月にかけて施し、花芽を力づよくし、また根や幹をしっかりさせて、冬の寒さに耐えられるようにします。化成肥料が適切です。

肥料は樹木の根元周りに与えましょう。位置は幹から最も外側に突き出た枝の下あたりを目安に施してください。

庭木の剪定

剪定は、成長を阻害する枝や、枯れ枝、病害虫におかされた枝を切ったりして、樹形を整える作業です。また庭の大きさに合わせて刈込をして美観を整えたりもします。剪定をすることで樹木の本来もっている自然の形にしてやります。

- 常緑樹・・・春の新芽が伸びきった6～7月に、茂りすぎた枝葉や伸びすぎた枝を切ってやります。風通しと日当たりをよくし、病害虫を防ぎます。
- 落葉樹・・・冬の間葉を落としているので枝の形がわかりやすく、樹木の形を整えるのに適しています。
- 花木・・・花が終わった直後に剪定するようにします。しばらくすると翌年の花を咲かせるために花芽をつけるのでその前に剪定するようにする。
- 針葉樹・・・円錐形の針葉樹は、横に飛び出した枝を切り、形を整えます。
- 灌木・・・花がつくものは時期が終わってから刈り込むようにします。花がつかないものは夏場を避けて刈り込むようにしましょう
- 生垣・・・伸びすぎた枝葉を刈り込んで、全体の形を維持します。刈込の時期は一般的に6月頃や10月頃が適期で、花木の場合は花の咲き終わったあとに刈り込むとよいでしょう。

夏季剪定

暖かくなって繁殖し、茂りすぎた枝葉や伸びすぎた枝を剪定し透かします。また樹幹の乱れを整えます。

冬季剪定

樹木の生育に影響が最も少ない休眠中の期間に大きく剪定します。落葉樹は葉をふるっているため枝の形を整えるのに適しています。また耐寒性のある常緑針葉樹の樹形も整えます。

病虫害防除

植物についての害虫や病気は、頼って置くと植物を枯らせてしまう場合もあります。病虫害が発生したら薬剤を散布などの適切な処理を行ってください。よく見かける病虫害とその対処方法をご紹介します。

よく見かける害虫とその処置

病虫害	症状	防除方法
アブラムシ (3-10月)	3～6月・体長1mmほどの虫が、新芽や新葉の裏に群生して発生。	筆などでを使って払い落とす。 スミチオン乳剤 1000 倍液を 7 日間隔で 2 回散布。
テッポウムシ (一年中)	カミキリムシの幼虫。孵化した幼虫が枝の中を食い荒らす。幹に穴が開き木くずがついている。	針金などで中の幼虫をほじくり出す。食害されると薬剤での防除は難しくなります。
カイガラムシ (一年中)	ウメやサザンカなどの枝に寄生し、汁を吸う。すす病を併発することも多い。	冬季にマシーン油乳剤 30 倍液や 7 月上旬にスミチオン乳剤 1000 倍液を散布する。
ケムシ・アオムシ (3-11月)	6月と9月に大量発生する。葉が食害され、丸坊主になることもある。毒毛に触れると湿疹になることもある。	スミチオン乳剤など多くの薬剤が効きます。死んだ虫の毒毛に触れても湿疹がでますのでご注意ください。
ハダニ (3-10月)	マツ類などに 7、8月の高温乾燥期に発生する。非常に小さい虫が葉の裏について汁を吸う。	ケルセン乳剤、アカール乳剤 1500 倍液を葉裏より散布。また、水に弱いため定期的に葉裏に散水して寄生虫を減らせることができます。
ゲンバウムシ (4-10月)	主にツツジ、サツキ類に発生し、軍配型の虫が葉裏に寄生して汁を吸う。葉表から見ると葉緑素が抜けて白い斑点が出る。	スミチオン乳剤、オルトラン薬剤などを葉裏より散布。枝を間引くなどして風通しを良くする。
ハマキムシ (4-11月)	ツゲ、モッコク、モチノキなどに春から秋まで発生し、葉をつづり合わせて食害する。	スミチオン乳剤、オルトラン水和剤が効果的。つづり合わせた葉や枯れた葉の中に虫がいるので見つけたら被害葉ごと摘み取ります。

発生しやすい病害とその処置

病 害 名	病 状	防 除 方 法
もち病 (5-6月、9-10月)	葉がモチ上に膨らみ、やがて白いカビで覆われ、肥大後は乾燥し落下する。	サンボルドー、ダコニール 1000などを散布する。また、葉が白くなる前に摘み取って処分する。
うどん粉病 (5-11月)	ケヤキ、ウメ類など様々な樹木の葉に春から秋にかけて発生する。葉の表面に白い粉のようなカビが発生する。	カラセン乳剤、サプロール乳剤などを散布する。チッ素肥料を控え、風通しを良くし、水をかけて駆除する。
斑点病 (4-10月)	葉に茶色の斑点ができ、次第に大きくなる。ひどいと葉が落葉する。	オーソサイド水和剤、ダコニール 1000などを散布する。発病した葉を摘み、風通しを良くして予防する。
黒点病 (5-11月)	バラ、ハマナスなどの花木に発生する。葉に黒い斑点ができ、ひどいと周りが黄色くなり落葉する。	トップジンMゾル、オルトランCなどを散布。発症した葉や落葉、落枝を取り、発生源ごと処分する。
すす病 (通年)	葉や枝などの表面が黒くすすの様なもので覆われる。葉が覆われると植物の生育も悪くなる。	スミチオン乳剤、オルトラン水和剤などを散布する。また原因となるアブラムシやカイガラムシを駆除する。
さび病 (4-10月)	主にスギ、マツ類に発生し、夏場に出やすい。葉に黄色の斑点ができ、葉が巻き上がるようにして枯死する場合もある。	発生初期にダイセン水和剤、水和硫黄剤 500倍を散布。風通しを良くし、加湿にも注意する。
てんぐ巢病 (4-12月)	主にサクラ、シラカバの枝などに発生し、枝の一部がふくらみ、無数の小枝が発生する。	被害を受けた枝を切り取り、ダイセン水和剤 500倍を散布。また、トップジンMペーストなどを切り口に塗っておきます。

芝生の管理

芝は、全体的に日当たりがよく、水はけがよい土で風通しのよいところを好む性質をもっています。このような性質から、芝を貼る場所を選び、土壌改良を行うと同時に次に述べるような管理が必要です。

- 芝刈り・・・芝刈りは、高さが1.5～2cmになるように成長に応じて行います。見栄えはもちろん、上に伸びようとする力を抑えて、横に伸ばす力を促すのと、根元に日光を与えてよく成長させるために行います。
- 除草・・・雑草が芝生の中に生えると、芝生の生長を阻害し、芝生が雑草の勢いに負けてしまうことがあります。特に春～夏は生えやすいのでこまめに除草してください。
- 灌水・・・夏場は土が乾燥しやすいので、朝か夕方にたっぷりと水をあげましょう。晴天が続く土が乾燥していると葉先が丸まったりします。芝生を植えたばかりの場合は約2週間ほどは土を乾燥させないように散水してください。
- 目土・・・3～4月ごろの芝刈りのあとに、芝生の葉が隠れない程度に軽く土か砂をかけてください。目土は発芽や発根を促すと同時に、芝面の凹凸を修正するために行います。
- 施肥・・・刈込を何度も行うと養分を失うので、定期的に芝に肥料を施さないと成長が衰えてしまいます。春～夏に化成肥料を1回につき1㎡あたり20～30g程度散布します。
- 病虫害対策・・・病虫害が発生すると、見苦しいだけでなく芝が衰えます。予防として定期的な刈込、施肥などの管理に加え、エアレーション（芝生の穴あけ）やサッチング（枯草の掃除）をします。